

# 礼拝式次第

司式・説教 牧師 北川 善也  
奏楽 オルガニスト 中西 聖嗣  
合唱 洛北教会聖歌隊

## 前 奏 (黙禱)

礼拝招詞 イザヤ書 9章1、5～6節

讃 美 94 「久しく待ちにし」

(一同起立 ※お手元のライトを付けてお歌ください)

## 祈 禱

聖書朗読 マタイによる福音書 1章18～23節

## 合 唱 This is Noel

Katherine K. Davis 作曲

森里信生・山田祥子・秋山まゆみ 編訳

### 1. 喜びの声を上げよう

ハレルヤ

喜びの声上げ、新しき歌を。

高らかに歌えや、この良き調べを。

神の愛、神の平和、今ぞなれる。

たたえよや主のみわざ、共に集いて。

歌えや、祝えや、この良き日を歌えや。

### 2. エサイの根より生い出でたるくすしき花

エサイの根より生い出でたるくすしき花は咲きそめけり

主は麗しき姿もなく、美しき形なく生まれましぬ。

彼は侮られて人に棄てられ、悲しみの人にして悩みを知れり。

主は我らのために懲らしめを受け、我らに安きを与えたもう。

エサイの根より生い出でたるくすしき花は咲きそめけり

### 3. 良き知らせは羊飼いに告げられた

野に群を守る牧人らに、

み使いは告げぬ、良き音信、良き知らせを。

世の民らよ聞け、恐れるなよ、

慰めと喜びの訪れ、良き知らせを。

### 4. 天使の歌

栄光、高き神にあれ。地には平和、人にあれや。

救い主イエスは、今日ダビデの町にて生まれたもう。

汝らは見ぬ。幼な子の、眠れるを。

栄光、高き神にあれ。地には平和、人にあれや。

聖書朗読 ルカによる福音書 2章1～20節

説 教 「恐れず迎え入れなさい」

祈 禱

讃 美 111 「神の御子は今宵しも」 (一同起立)

合 唱 This is Noel

5. 東方の博士

我らは来たりぬ、はるけき国より。星に導かれ、野山越えて。  
くすしく輝く星の光よ、我らを導けみ子のもとへ。  
我らの持ち来たれる貴き宝。メシヤのみ前に供えまつらん。  
よろずを統べますメシヤは生まれぬ、  
我らは急ぎて、いぎ、ベツレヘム。

6. 神は人となられた

神のみ子は、み座を降り、人の姿、とり給えり、  
贖いとなりたもう、へりくだりて。  
低きものも、高きものも、天使たちと共に歌えや、  
天なる喜び、声も高く、喜びの歌。

7. 喜びの歌をうたおう

ハレルヤ  
喜びの声上げ、新しき歌を。高らかに歌えや、この良き調べを。  
神の愛、神の平和、今ぞなれる。  
たたえよや主のみわざ、共に集いて。  
歌えや、祝えや、この良き日を歌えや。

献 金 (感謝祈祷)

主の祈り

(着席のまま)

てん 天にまします われ 我らの ちち 父よ。  
ねが 願わくは 御名を あがめさせ 給え。  
みくに 御国を 来たらせ 給え。  
み 御心の ところ 天になる ごとく、ち 地にも なさせ 給え。  
われ 我らの 日用の 糧を 今日も 与え 給え。  
われ 我らに 罪を 犯す 者を 我らが 救す ごとく  
われ 我らの 罪を も 救し 給え。  
われ 我らを 試み に あわせ ず 悪より 救い 出だし 給え。  
くに 国と 力と 栄え とは 限り なく 汝の もの なれば なり。  
アーメン

報 告  
讃 美 1 1 2 「もろびとこぞりて」 (一同起立)  
祝 祷  
応 唱 「この群れを祝し」  
後 奏 (牧師・聖歌隊退堂)

- 
- \*お願い
1. 携帯電話の電源はお切りください。
  2. 礼拝は終わりまで共にお守りください。
  3. 献金は、日本基督教団諸教会の会堂建築援助をはじめとするキリスト教諸活動のために用いられます。
  4. 献金は、献金袋に入れ、あらかじめご用意ください。
  5. お立ちになるのが困難な方、しんどい方はどうぞお座りのまま礼拝をお捧げください。

## 聖書

### ◎礼拝招詞

#### 《旧約聖書・イザヤ書 9章1、5節》

<sup>1</sup>闇の中を歩む民は、大いなる光を見 死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。

<sup>5</sup>ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神 永遠の父、平和の君」と唱えられる。

### ◎聖書朗読

#### 《新約聖書・マタイによる福音書 1章18～23節》

<sup>18</sup> イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。<sup>19</sup> 夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。<sup>20</sup> このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。<sup>21</sup> マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」<sup>22</sup> このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。<sup>23</sup> 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

#### 《新約聖書・ルカによる福音書 2章1～20節》

<sup>1</sup> そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの

<sup>ちよくれい</sup>勅令が出た。<sup>2</sup> これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。<sup>3</sup> 人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。<sup>4</sup> ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。<sup>5</sup> 身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。<sup>6</sup> ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、<sup>7</sup> 初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

<sup>8</sup> その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。<sup>9</sup> すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。<sup>10</sup> 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。<sup>11</sup> 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。<sup>12</sup> あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」<sup>13</sup> すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。<sup>14</sup> 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

<sup>15</sup> 天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。<sup>16</sup> そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。<sup>17</sup> その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が話してくれたことを人々に知らせた。<sup>18</sup> 聞いた者は皆、羊飼いたちの話をも不思議に思った。<sup>19</sup> しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。<sup>20</sup> 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。